資料2-3

2-3. 第１回観光みらいWGの活動報告

第三次富士河口湖観光立町推進基本計画
第１回観光みらいWG

富士河口湖町
TOWN OF FUJIKAWAGUCHIKO

■日程

2026 年 7月15日(水)　14:00～16:00

■場所

富士河口湖町役場 コンベンションホール

■議事

1．あいさつ
2．観光みらいWG開催の趣旨
3．インプット：「富士河口湖町をとりまく現状」とは
4．ワーク「VICEの4視点で富士河口湖町の観光課題を整理」
　【全体説明】ワークの進め方説明（10分）
　【アイスブレイク】自己紹介等（10分）
　【ワーク】　グループワーク（55分）
　【全体共有】各チーム代表者による「全体共有」（15分）
5．まとめ

■参加者

A班	大石観光協会
	勝山観光協会
	河口湖温泉旅館協同組合青年部
	河口湖温泉旅館協同組合青年部
	富士河口湖町役場（事務局）
	（公財）日本交通公社（事務局）
B班	小立観光協会
	河口湖温泉旅館協同組合青年部
	河口湖温泉旅館協同組合青年部
	（一社）富士河口湖町観光連盟
	富士河口湖町役場（事務局）
	（公財）日本交通公社（事務局）
欠席	北河口湖観光協会
	西湖観光協会

ワーク「VICEの4視点で富士河口湖町の観光課題を整理」

富士河口湖町
TOWN OF FUJIKAWAGUCHIKO

■実施の様子

■使用資料（一部）

本日のワーク内容

概要説明	ワークの進め方説明（**10分**）
アイスブレイク	自己紹介等（**10分**）
ワーク	グループワーク（**55分**）
全体共有	各チーム代表者による「全体共有」（**15分**）

33

ワークの進め方・考え方

ワークの進め方

0～10分　：**各自で**ふせんに書き出す（V・I・C・Eそれぞれ）
10～50分：**グループワーク**。各自で考えた内容をもとに、模造紙にふせんを貼りながら議論
50～55分：発表準備に向けたグループ内でのまとめ。**発表者１名程度決定**（事務局以外の方）

✓ 模造紙は「V」「I」「C」「E」それぞれ用意しています。必ずしも、すべての模造紙を埋める必要はありませんので、意見の多かったカテゴリから討論し、模造紙を埋めていくことをお勧めします
➢ グループワークの最初に、各自の意見出しでどのカテゴリが多かったかを最初に確認したうえで進めましょう

ワークの考え方

- 必ずしも「目標」⇒「現状」⇒「課題」の順番で考えなくとも、考えやすい順番で記載いただいて問題ありません。（例：「町内の各エリアの周遊促進」という課題から考えることも可）
- 「目標：みんなが幸せになる観光地」といった広いトピックではなく、**皆様が普段から感じられている事柄や課題感等をふまえた、個別・具体のトピック**で極力ご検討ください。
- **自分たちでできること**や**行政と連携して実施するもの**など、内容は幅広く検討ください。

ワークのルール

✓ ワーク内容に正解はありません。**他者の意見は否定せず**、各自の考えに耳を傾けましょう
✓ ワークの時間が限られているため、自身の**説明は極力簡潔に**お願いします
✓ ふせんへは、**「キーワード」を記載**（文章にしない）。また、**太字で大きな字**を書くようにし、書ききれなかったことは口頭で補足ください

37

【全体共有】各チーム代表者による「全体共有」

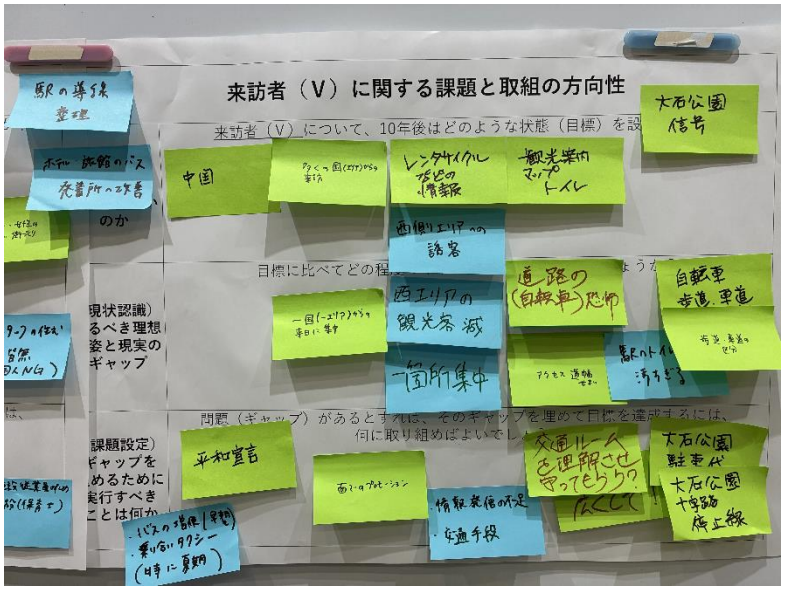
■実施の様子

グループワーク結果

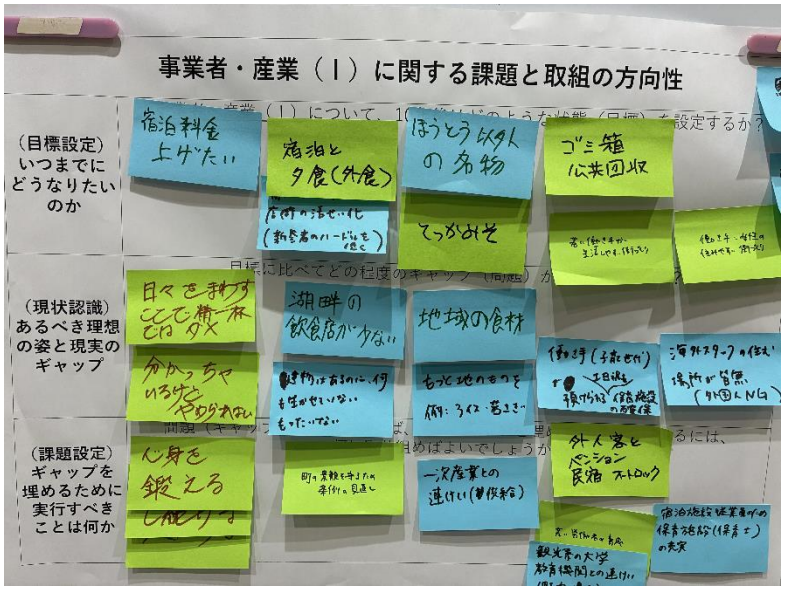
■A班

富士河口湖町
TOWN OF FUJIKAWAGUCHIKO

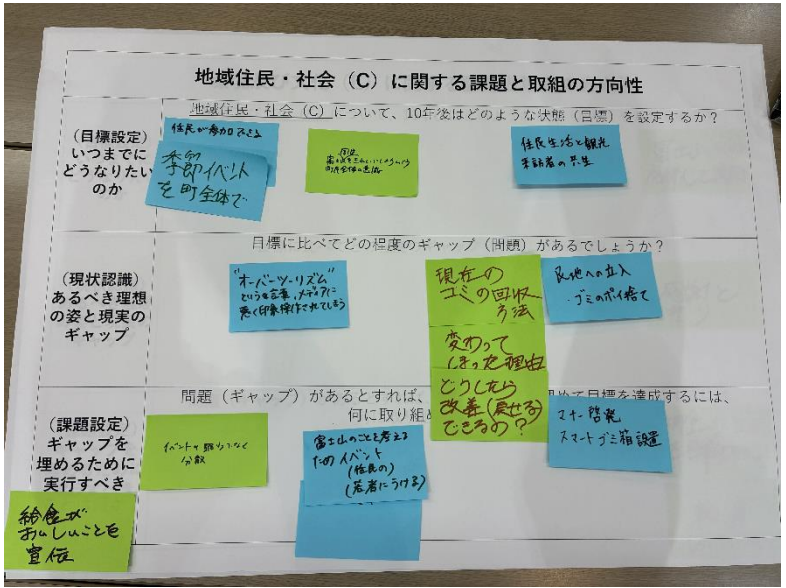
来訪者（V）に関する課題と取組の方向性



事業者・産業（I）に関する課題と取組の方向性



地域住民・社会（C）に関する課題と取組の方向性



備考

- 地域住民・社会（C）に関する課題と取組の方向性については、全体共有は行わなかったが、グループ内で議論された。

グループワークでの議論　■A班

富士河口湖町
TOWN OF FUJIKAWAGUCHIKO

来訪者（V）

- 富士山を見るという目的に観光客が集中している現状に対し、**エリアを分散させ、複数エリアを巡って楽しめる**観光地を目指すべき
- 観光客の交通ルール遵守（特に自転車の走行マナー）が課題であり、**安全対策やルールの周知徹底**が必要
- 駅周辺で観光客の動線が整理されておらず、バスやタクシーの利用、宿泊施設への移動がスムーズに行えていないため、**動線の整理と情報提供**が求められる
- 外国人の公共トイレの利用に関するマナー啓発をしているが効果が薄い（衛生面で課題が残る）
- 観光客のゴミ問題に対し、**ゴミ箱の設置や回収体制の見直し**をすべき
- **大石公園周辺の道路環境を整備**し、新たな観光拠点として活用すべき
- 中国からの観光客に対し、**平和宣言のようなメッセージ**を発信することで、良好な関係性を構築するきっかけを作るべき　一方で外国人観光客の国籍は一部の国に偏らず分散すべき

事業者・産業（I）

- 宿泊施設において、夕食の提供が不足しているため、**夕食情報の提供や飲食店との連携**が課題
- 飲食店や観光サービスへの新規参入のハードルが高いため、**若い世代が参入しやすい環境づくり**が必要
- 観光業を**「稼げる産業」として再定義**し、若い世代が働きたいと思える環境を整える必要がある
- **郷土料理**（茄子の味噌焼きなど）の提供を強化すべき
- **一次産業と連携**し、食材の域内調達率を高めるべき
- **質の高い学校給食を地域ブランド**としてホームページ等でPRし、移住者や観光客へのアピール材料とすべき
- 観光業における**人手不足が深刻**であり、特に外国人スタッフの住宅問題が課題
- 観光学や関連サービスを学ぶ、**近隣の大学や専門学校等と連携し**人材を確保すべき
- 宿泊施設において、外国人観光客のニーズに合わせた対応や、日本人観光客を増やすための差別化戦略が求められる

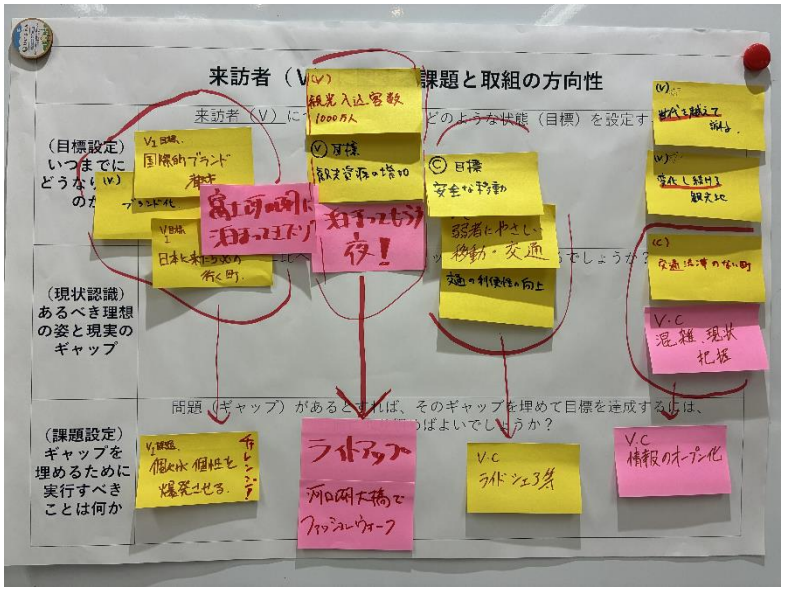
地域社会（C）

- **富士山に対する住民（特に大人たち）の知識・教養不足**が生じているため、観光客と住民が参加できるイベント等を通じて富士山への理解を促進すべき
- **宿泊・飲食サービス従業員向けの保育施設**を充実させるべき（土日保育の充実や立地の改善等）
- 観光地化が進む中で、住民の生活環境（民地への立ち入りやゴミ問題）が圧迫されている現状があり、**観光と住民生活のバランスを考慮した計画**が必要
- **観光教育を通じて、次世代を担う子供たちに地域の価値や観光の重要性**を伝え、将来的に観光に関わる人材育成が必要
- 観光客の受入において、行政だけでなく、観光協会や民間事業者、住民が連携し、地域全体で観光を支える体制を構築すべき
- 町の景観を守るための条例が必要

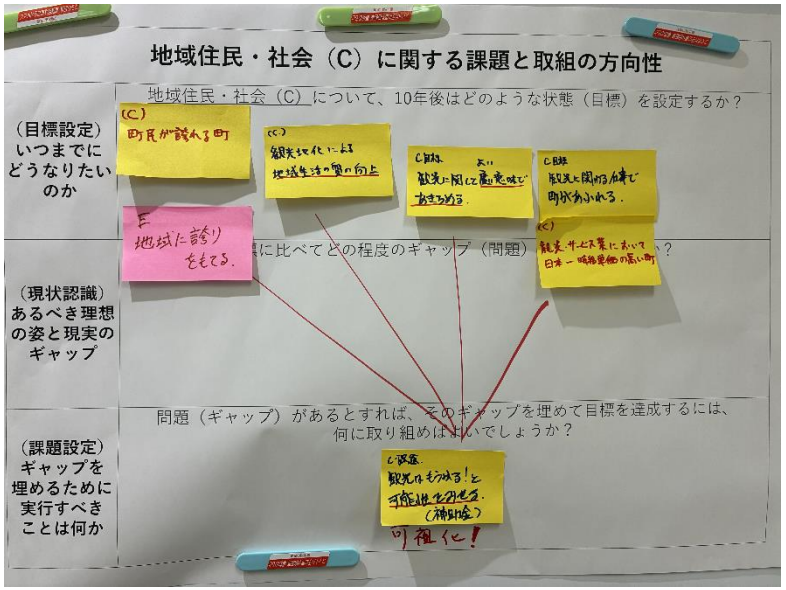
グループワーク結果　■B班

富士河口湖町
TOWN OF FUJIKAWAGUCHIKO

来訪者（V）に関する課題と取組の方向性



地域住民・社会（C）に関する課題と取組の方向性



代表者による「全体共有」

- 来訪者（V）に関する課題と取組の方向性において、国際的なブランド都市としての地位確立と、入り込み客数1,000万人の達成を目標に掲げている。
- 河口湖に泊まったことがステータスとなるようなブランド戦略の推進が提案された。
- ナイトタイムエコノミーの推進として、ライトアップや河口湖大橋でのファッションショーなど、滞在を促すコンテンツの創出が挙げられた。
- 観光弱者にも配慮した安全な移動手段の確保として、ライドシェアの活用や、交通情報のオープン化による混雑回避のための環境整備の必要性が提案された。
- 大石公園周辺の交通渋滞など、観光地特有のアクセス課題を解消し、観光が収益を生む可能性を10年後を見据える意見が示された。

- 地域住民・社会（C）に関する課題と取組の方向性において、町民が誇りを持てる町づくりと、観光を通じた地域生活の質の向上が目標設定として挙がった。
- 地域住民に対し、観光で町を運営していくという方向性の理解・受容が求められた。
- 観光に従事する人々の賃金を日本一高い水準に引き上げ、魅力ある環境を構築する意見が示された。
- 事業者の意欲向上に向け、金融機関の借り入れ優遇や公募活用など、新たなチャレンジを後押しする支援体制の整備の必要性が提案された。
- 観光成長の恩恵を可視化し、住民にとって住みやすい町へと変化している実感を醸成する重要性が確認された。

グループワークでの議論　■B班

来訪者（V）

- **国際的なブランド都市としての確立**を目指し、**各事業者がニッチでエッジの効いた個性的なサービスに挑戦**する環境を作る。そのためには個々の事業者がアイデアを出しやすい環境づくりや補助金といった支援が考えられる
- 宿泊者数を増やすため、**夜間の観光コンテンツ**（ライトアップや湖面へのプロジェクションマッピングなど）を充実させる
- 富士河口湖大橋を封鎖してファッションウィークを開催するなどの大胆なイベント企画を検討する
- 観光客の移動手段として、レンタカーやハイヤーに頼らない**移動弱者（高齢者や子連れ）に優しい交通手段**を整備する
- 渋滞緩和のため、郊外に駐車場を設置し、そこからシャトルバス等で観光地へ移動する「**パークアンドライド**」方式を導入する
- 観光地や富士山の見え方に関する**情報をIT活用でオープン化**し、混雑状況やリアルタイムの情報を共有する

地域社会（C）

- 住民が**自分の町に誇りを持てる**よう、**観光が地域にもたらす恩恵**を再認識し、**可視化**する
- 観光業を地域の基幹産業として位置づけ、**観光に関わる仕事の待遇**を日本一高い水準に引き上げることで、住民の参入を促す
- 観光客の増加による渋滞やクレームに対し、観光地であることを受け入れ、観光業への参入を前向きに捉えるマインドセットへの転換を図る
- 観光宿泊税の税収を、観光業に従事する子育て世代のための保育園整備や支援に充てる
- 地域の給食の質の高さや無料化といった子育て支援策を、移住者誘致や働き手の確保につなげる
- 観光客に対する「**インバウンドありがとう券**」のような、観光還元商品券の発行を通じて、**住民が観光の恩恵を直接実感**できる仕組みを作る